

## 神戸市会 会議録

2008.03.05 : 平成20年予算特別委員会第1分科会〔20年度予算〕(市民参画推進局等)

本文

(一部抜粋)

66 : ○分科員(北山順一)

○分科員(北山順一) それじゃあ、私からもこの青少年の居場所づくりということについてお伺いをしておきたいと思います。

ご存じかと思いますが、長田区では——長田区ではというよりも、どの区だって一緒だと思うんですけど、ふれあい喫茶という地域の人々、婦人会、老人会あるいは子ども会が主催する喫茶があるんです。朝、いつも行われております。そういう地域のふれあい喫茶でもってお年寄りの見守りという、そういう意味を込めて、いろんな地域でやっておりますが、私は大変意義深いことだと、こういうふうに思っております。その中に、小学生と一緒に行動しているようなところもあるんです。このような地域での世代の違う人たち、こういう人たちの交流というものが、本当に横で見えておってほほ笑ましい光景が見られるわけなんです。そういうふうな光景を見ておると、地域住民同士のつながりといいますか、心のつながりだけではなくて、非常にいろんな分野でのつながりを見ることができます。また、それに触れ合っておる子供たちにとっては、将来の人間形成という意味では大変意義深いことだと、こういうふうにも私は思っております。

そこで、市民参画推進局では、先ほど東灘の居場所づくりについてのお話がありました。けれども、長田区にも新たに青少年の居場所づくりを設置するんだと、こういうふうに聞いておりますが、このような場所でも、お年寄りと青少年との異世代間の交流、これがもう本当に力強く図られるような、そういう場所に子どもはしてほしいと、こういうふうに思っておりますが、この青少年というのは将来の地域のリーダーになる、そこで鍛えられた青少年は地域のリーダーとして育っていくと、私は金の卵だと、こういうふうにも思っております。そういう意味で、長田区での居場所づくりをどのようにしていくつもりなのかということをお伺いしておきたいと思います。

それから、神戸市ではデザイン都市をつくるんだと、こういうことで今、全市を挙げて頑張っております。その都市戦略として、デザイン都市神戸は、市民との協働と参画によるまちづくりを進めておるんですね。このデザイン都市の中でうたわれておりますのは、空間、経済、文化、こういうものに限るだけではなくて、非常に範囲の広い概念でとらえておると、私どもはそういうふう考えております。人と人の心のデザイン、こういうものも大変重要だと、それもこのデザイン都市のテーマとして大変大事なんだということにとらえておる。それが、神戸市のデザインづくりの大きな他都市との違いだと、こういうふうには私は思っております。

このデザイン都市については、企画調整局を中心にさまざまな施策が考えられておりますけれども、市民参画推進局では、我がまちへの愛着を進める、深める。美しいまち神戸の推進に向けて、地域力アップの支援事業を行っております。まさに、人の心を育てるまちづくりであると、こういうふうには私は思っ

おります。それこそ心のデザインだと、こういうふうに考えますが、協働と参画を掲げる市民参画推進局長の、デザイン都市にける思いというものを私は聞いてみたいと、こういうふうに思っておりますので、お答えいただきたいと思えます。

それからもう1つ、区役所の市民との対応の問題について、川内委員からお話がありました。私も聞いておまして——20%賛成で、80%反対だと、こう言っておりました。私はもっと数字は違うと思っております。本当に今の区役所だって、病院だって、十分市民との対応はできておると、こう思っております。そんな中で兵庫区が選ばれたということは名誉なことだと余り思わないんですがね、兵庫区長どう思うんか、そのことをちょっと聞いときたいと思っております。

以上です。

#### 67：○永井市民参画推進局長

○永井市民参画推進局長 デザイン都市についてお答えしたいと思います。

決特委でも同じ質問をいただきまして、ある程度お答えしたんですけども、同じ答弁になるかもしれませんが、神戸——なぜデザイン都市を都市戦略で持つかということになりますと、やはりあのときも答えましたように、神戸の場合、震災で神戸から出ていった市民が、やはり神戸に戻りたいと。あるいは、私、おつき合っているマスコミの支局長でも、神戸に2年おって、それで東京に戻られた支局長がホームシックにかかっておりますというふうな年賀状を送ってこられるということから、本当に何かしばらく住んでるだけでも、やはり住みやすさといいますが、神戸の持っている大都市の中の自然でありますとか、あるいは特有の生活文化でありますとか、それを支える産業でありますとか、いろんな形で神戸特有の魅力といいますが、資源といいますが、そういうものが、我々の方は余り意識しないんですけども、外の人あるいは外に出た人から言うと、非常な魅力になつとるんじゃないかなと。

そういうものとかまちとか暮らしとか、そういうものを——震災でめちゃくちゃになったわけですけども、それから再生して、これからもう1段グレードアップするといいますが、そういう段階にやっと来たわけでございますので、やっぱりそういう神戸の持つとるよさというものをデザインの観点から1つ——もう少し質を高めようといいますが、そういう形で神戸の魅力をつくっていこうというふうなことが、デザイン都市を標榜する理由ではないかなというふうに理解をしておりますけども。そのデザイン都市を推進するのに、協働と参画で計画的に、継続的にやっていこうというふうな企画調整局の方の考えがあるようございまして、その協働と参画の進め方をするとということできまして、このデザイン都市を推進するためには、やはりそのもとといいますが、基礎として、市民の我がまちへの誇り、愛着、あるいは人と人との結びつきといった、心の豊かさを醸成することも大切な要素かなというふうに思っております。それが北山先生がおっしゃるところの心のデザインだとすれば、市民参画推進局がやっておる美しいまち神戸の推進事業というのは、まさにこの活動、事業を通して、我がまちへの愛着を深めたり、あるいは人と人との結びつきを強化したりというふうなことになるわけでございますので、まさにデザイン都市推進に向けた心のデザインに関する取り組みの一役を担うものかもしれないなというふうに思っております。

市民参画推進局の方でこれまで取り組んできました美しいまち神戸というのは、心地よさを感じてもらえるまちでありますとか、誇りや愛着を感じてもらえるまちを目指して、協働と参画のプラットホームを

拠点にしまして推進をしておるわけでございますけれども、具体的には震災で20年前に逆戻りしたと、よく言われるマナーの問題があるわけございまして、そのマナーの回復といいますか、そういう意味で、ごみの問題とか落書きの問題、それから放置自転車の問題等、地域課題に対して、地域とかあるいはNPOと一緒に、行政も一緒に、協働でモデル的にその解決に向けて取り組むという、そういう事業でございまして、例えば二宮はよく今出しますので、あるいは野田北部も長田であるわけございすけれども、13地区に今モデル地区で入っておりますけれども、垂水の舞子地区でいきますと、ごみの不法投棄対策、あるいはごみ出しルールの徹底という地域課題に対しまして、自治会がなかった地域で、未結成のエリアで自治会を新たにつくられて、立ち番が実施されておると。勉強会、月1回定期的に開催するという、そういう中で課題を共有されて、協力体制の構築が実現されておると。これが当初、西舞子だけでやっておったのが、周辺の舞子坂まで活動のエリアが徐々に拡大しておるといふうな、そういう形で美しいまちを実現し、まちづくりへの愛着を深め、人と人との結びつきが強まっておるといふうな、そういう活動になっておるといふうに聞いておりますけれども。

こういうふうなモデル地区を平成20年度からは地域力アップ！支援事業という形で、コンサルを派遣をした中で、これまでの美しいまち推進事業を継承した形で、地域力強化に向けて取り組む事業として1つグレードアップしてやっていきたいなというふうに思っております、こういう形で地域に入っていく、いろんな——やはり以前にも言いましたように、ノウハウでありますとか、あるいは成果が出てくるわけございまして、これをやはりほかの地域に広めるという形で、いろんな広報媒体とか、あるいは発表会とか、交流会とか、こういった形で情報発信していく、ほかの地域にもこの活動の輪を広げていきたいなというふうに思っております、やはりそういうための地域課題に取り組む、地域・人を支援する仕組みづくりをやる、あるいはバックアップ的な機能を果たすということが我々の方の役割かなというふうに思っております、これデザイン都市は全庁的に進めていくものでございすけれども、その役割の一役をそういう形で担っていきたくと。美しいまちを進める中で、心の豊かさというものを醸成して、デザイン都市の推進につなげていきたいというふうに思っております。

余り答えになっていないかもしれませんが、そういうふうな気持ちでおりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

#### 68：○竹部兵庫区長

○竹部兵庫区長 兵庫区に区民サービスディレクターが配置された理由を、どう区長として考えておるんやというご質問でございました。ちょっと独断と偏見になるかもわかりませんが。

本庁サイドでこういうお考えはいただいたんですけれども、そういうところでお伺いしますと、平均的な都市部にある、特に市民課と保険年金医療課が同フロアにあるというような形がありまして、1つ典型的な——9つの区の中で——区であるということをお聞きしておりますが、私自身はひとつやっぱり兵庫区、長田区もそうでございますけれども、やはり高齢者がたくさんいらっしゃる。今、26%ほどおります、市全体は20%ですけれども。そういった高齢者に優しいまちの対応として、やはり兵庫区がふさわしいのじゃないかというような、そういったことかなと思っております、図らずも中期計画で、私どもの兵庫区の中期計画は、やさしさと思いやりのまち兵庫区ということをおっしゃるんですが、これは先生

おっしゃっています、兵庫がそうございまして、実は心豊かで人と人がつながる市民協働のまちということが目標でございまして、そういったことを中心に置いてございまして、サービスディレクターが配属されることによりまして、我々も当然、先ほど叱咤いただきましたけれども、当然我々もやるわけでございますけれども、ディレクターに一番求めることは、迅速、正確な仕事、これはもう当たり前でございますけれども、やはりその付加価値として、優しさと思いやりといいますか、親切、丁寧で、高齢者あるいは障害者の方に満足いただけるような形に持っていくと、そういうところで兵庫区がふさわしいんじゃないかと、これはデザイン都市にも続いていくことかとは思っております。

以上でございます。

#### 69：○大賀市民参画推進局市民生活部長

○大賀市民参画推進局市民生活部長 長田区におきます居場所づくりでございしますが、新長田勤労市民センターを活用いたしまして、ロビーに50平米ほどのフリースペースをつくる。そして、多目的ホール等を借り上げまして、ダンスや演劇の練習場所にする。それで、またバンド等の活動につきましては、神戸アートビレッジセンターのスタジオを活用していくというようなことで考えてございます。

先生、特にご指摘でございます異世代間の交流につきましてでございますが、フリースペースなんかでの青少年見守りなどに、地域の方にボランティアとして参加してもらうなど、そういう場を通じての交流も図っていければと考えてございますし、また青少年向け事業といたしまして、今まで実施してきておりましたいろんな施設——他の区におけます施設等の経験も踏まえながら、異世代の交流が図れる、そして長田の地域の特性を生かした長田らしい、そういう事業の実施をやっていくというようなことで考えてございます。そのためには、地域の皆様のご協力、そのようなことも今後お願いしていきたいなど、そんなふうにご考えておるところでございます。

#### 70：○分科員（北山順一）

○分科員（北山順一） 今、局長からもいろいろご説明をいただきました。このデザイン都市における市民参画推進局の姿勢というものについてお伺いをいたしました。そういう姿勢で、デザインの観点から心の哲学、デザインをあと1歩進めたい。また、あの震災で20年前に逆戻りしたんだという、その市民の心ももう1回戻したいと、こういうふうな心でございまして、それはそれで頑張っていたきたいと思っておりますし、その局長の哲学を全職員に行き渡らせてもらわないといかんと思うんです、行き渡らしてもらおう。それはもう行き渡っているよと、こういうふうに思っているかもしれませんけれども、こういう話があるんです。ある市の職員が、今自分は市の職員として仕事をさせてもらっております。しかし、この職場で働いておりますけれども、本当にこの仕事をしておるこの姿でいいんだろうかと、いつも悩んでおります。どこかかわらせてほしいと思うけども、かわっても同じような状態だと、そういうふうには私が見ておると。こんなことで本当に市の職員として、このままのんびらだらりと生活しておっていいんだろうかという悩みを私自身が聞いております。市の職員です、現役の。その職員に対しても、やっぱり局長が今言ったような言葉、哲学、それを全職員に行き渡らしてもらいたい。私はそのように思っております。そのことについてお伺いしたいと思います。

それから、区役所にしても病院にしても、私は立派によく頑張っておと思っていますよ。病院だって、私は西市民病院へよく行くんですけれども、本当に一生懸命病院の職員は市民サービスに取り組んでおります。

ただ、問題は——もう1回戻りますけれども、この病院の職員とか、学校の先生とか、そういう人たちが公務員保険にどんどん入っていると、この実態をやっぱり直さないといかん。なぜ公務員保険に入るのかと。あのモンスターと言われる——ペアレントモンスターと言うんですか、そういう人たち、あるいは患者に対する病院の対応、そういうものがあるんです。そういう公務員保険に入らなければやっていけないというような状態を、もっとちゃんと心のデザインでもとに戻してほしいということについて、ちょっとお伺いします。

#### 71：○永井市民参画推進局長

○永井市民参画推進局長 ちょっとその職員の置かれている事情というか、職場環境がどういうことなかがわからないもんですから、お答えしようがないんですけれども、今おっしゃったようなことを聞いておると、もうそのデザイン以前の本人の問題かなど。そんな甘えてどうすんねんという、自分自身で解決してくれというふうな、そんな感じがしますけれども。（「それは違う。」の声あり）

違いますか。（「職場全体がそういうふうになつとるから、悩んどる。」の声あり）

職場の問題というのは、どういう具体的な問題なのかと聞いてみないとわからないですけども、職場に問題があるのであれば、それはその所属長の問題だろうと思いますし、所属長とその職員がきっちりと話し合って、役所の中の問題ですので、それはもう当然、自分たちで解決する問題だろうと思います。それを市民にどうのこうの、影響といいますか、支障があるようなことでは——給料をもらって仕事をしとるわけでございますので、話にならないというふうな気持ちでありますけれど。

#### 72：○分科員（北山順一）

○分科員（北山順一） もう時間ないでしょ。終わりますけども、それは個人の問題ではなくて、個人は仕事をもっとやりたい、だけこのままでは難しいと、こういうことを言っておるんであって、そこを取り違えないようにしていただきたい。

終わります。

#### 73：○主査（芦田賀津美）

○主査（芦田賀津美） 以上で、市民参画推進局関係の質疑は終了いたしました。

当局、どうもご苦労さまでした。